

営業概況

計測器事業

次世代移動通信システムLTEにおいて、当社の強みである開発用計測器により世界No.1シェアを狙います。また、成長市場として期待できる中国の3G携帯分野において、ビジネス拡大を目指します。



業界動向と当期レビュー

携帯電話関連の投資は、3G/3.5GからLTE(3.9G)へ移行しつつあります。当社は、LTE向けの研究開発用計測器の新製品を、2008年12月に世界に先駆けて商品化し、顧客ニーズに柔軟かつタイムリーに対応しています。

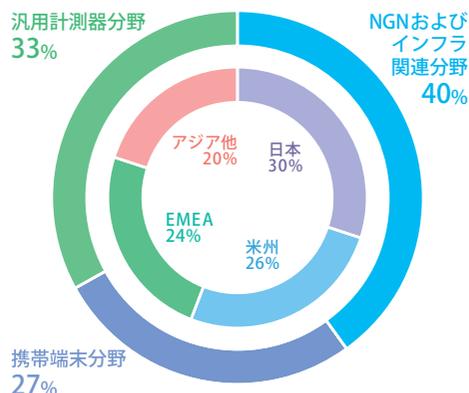
こうしたLTEの需要が顕在化しつつあるものの、既存ビジネスの落ち込みは大きく、当事業の売上高は574億49百万円(前期比21.0%減)となりました。営業損益は、「緊急経営施策」による固定費削減などを行ったものの、大幅な売上減少の影響により、7億91百万円の損失(前期は41億26百万円の利益)となりました。

今期の事業戦略と業績見通し

依然として厳しい事業環境のもと、開発が本格化するLTEの計測ビジネスと、加入者規模が大きい中国3G携帯関連分野など、計測需要が拡大する通信市場に注力していきます。

LTEは、グローバルに普及する次世代の無線アクセス技術です。当社は3G開発分野で培った技術力と、国内ベンダー、グローバルベンダーとの信頼関係を維持・向上させな

計測器事業の地域別売上高(内側)
およびサブセグメント別売上高(外側)



がら、LTE開発分野でも世界No.1の地位を獲得すべく全社のリソースを集中的に投入し、ビジネス拡大に取り組んでいます。

中国の3G携帯関連分野では、インフラ整備が各地で本格化し、来期以降は携帯端末の量産が見込まれます。当社では、インフラ整備に不可欠な基地局建設保守用ハンドヘルド計測器の拡販を行い、中国においてもNo.1の地位を確保します。また、中国が推進している通信方式であるTD-SCDMAの携帯端末の立ち上がりをとらえ、顧客ニーズにタイムリーにソリューションを提供していきます。

なお、今期の当事業の売上高は、LTE関連市場や中国3G市場での売上拡大を見込むものの、その他の分野では総じて減少すると見ており、510億円(当期実績の11%減)を計画しています。営業利益は、スリム化された組織体制によるコスト削減効果などを見込んで、13億円(同21億円の改善)を計画しています。

分野別のフォーカスエリア、顧客、ポジション一覧(当社推定)

	NGNおよびインフラ関連分野		携帯端末分野			汎用計測器分野	
	R&D用途	建設・保守用途	R&D用途	製造用途	建設・保守用途	R&D用途	製造用途
フォーカス エリア	40Gbit/s、100Gbit/s 光伝送 光変調器 NGMN (Next Generation Mobile Network)	無線基地局 光ファイバ敷設 ネットワーク 品質保証	3G/3.5G アプリケーション LTE 中国TD-SCDMA	3G/3.5G携帯端末 中国TD-SCDMA用 携帯端末	携帯端末の 修理・保守	RFデバイス (LTE/Bluetooth/Wi-MAX/ カーエレクトロニクスなど) デジタル放送 など	
顧客	通信事業者 通信機器ベンダー	通信事業者 通信建設業者	携帯端末ベンダー チップセット・ ベンダー	携帯端末ベンダー	通信事業者 携帯端末ベンダー	電子デバイス/コンポーネントベンダー 通信機器ベンダー 携帯端末ベンダー カーエレクトロニクスベンダー など	
ポジション (グローバル)	OTN(Optical Transport Network) 市場 No.2	無線基地局用 ハンドヘルド 計測器 No.1 (シェア70-80%)	3G携帯R&D No.1 (シェア60-70%)	3G携帯端末の製造 No.3	日本市場 No.1	スペクトラムアナライザ・ 信号発生器 No.3	

NGNおよびインフラ関連分野

通信機器の研究・開発向けソリューションに加え、通信インフラの構築・監視からサービス品質保証までのさまざまなソリューションを提供することで、事業の拡大と安定化に取り組んでいます。

1) 光・デジタル・IP計測

音楽やビデオのダウンロード、IPTV^(注1)などの普及、および企業向けのブロードバンド接続サービスの拡大により、データトラフィック量が増加しています。基幹ネットワークでは、超高速の40Gbit/sネットワークの建設や100Gbit/sネットワーク装置の研究開発が本格化し、これらに関連する計測器の需要が見込まれます。

この分野の計測器開発は最先端技術が必要とされ、参入障壁の高い分野です。当社が保有している超高速デジタル計測技術、光計測技術、IP計測技術などを活用し、競合との差別化を図りながら計測器をタイムリーに市場投入しています。

2) ネットワークインフラ建設保守

光ファイバー通信、3G/3.5G、WiMAX^(注2)など、多様化するブロードバンド・アクセスネットワークの建設・保守需要に対しては、卓越した小型高密度実装技術と省エネ技術を活かしたハンドヘルド計測器を多数取り揃え、顧客の要望に広く応えて収益の拡大を実現します。今期は、中国国内で3G携帯電話の基地局が大規模に建設されており、大きなビジネスチャンスととらえています。



注1: IPTV
IPネットワークを利用したテレビ放送サービス。



注2: WiMAX
(Worldwide Interoperability for Microwave access)
高速無線アクセスネットワークの規格。有線のADSLや光ケーブルと同等の高速データ通信を無線で行うものとして期待される。



スペインとハンガリーで開催された「F1グランプリ2008」の映像配信を支えたフィールド用測定器CMA5000



注3: 3GPP
(Third Generation Partnership Project)

3Gシステムの標準化にあたり、その仕様の検討・作成を行うプロジェクト。

3) サービス・アシュアランス

ネットワークをモニターし、サービス品質を解析するサービス・アシュアランス事業は、サービス品質に応じた加入者サービス料金体系を構築しようとする通信事業者において、高い需要の伸びが期待できます。今期はEMEAを中心に営業活動を展開し、利益の改善を図ります。成長が期待できる当事業を当社の戦略的事業と位置付け、将来の柱のひとつになるよう事業拡大を目指していきます。

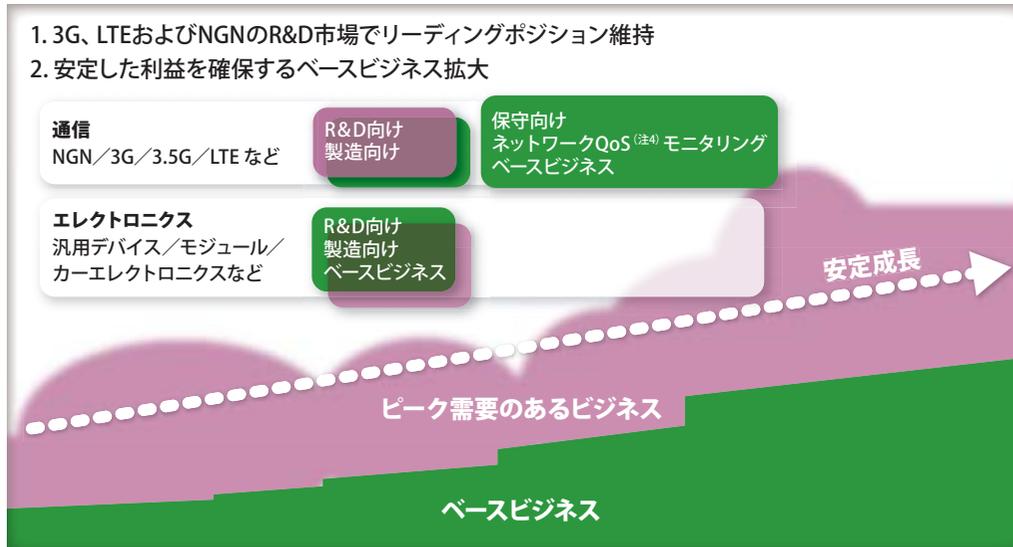
携帯端末分野

成長ドライバーであるLTEについて、早期に開発用計測器需要を取り込み、顧客ニーズに対応したソリューションを提供することで世界No.1シェアを維持します。また、中国3G携帯の開発製造に向けた新規需要の立ち上げりに備えます。

携帯電話を用いた光ファイバー並みのブロードバンド・サービスを実現するため、2010年以降、LTEのサービス開始が世界各地で見込まれています。当社はLTEの規格化を推進している3GPP^(注3)において、標準化作業に積極的に参画しているほか、3G携帯端末の計測ソリューションの提供を通して顧客との緊密な関係を構築しています。顧客と開発ロードマップを相互に共有しながら、本格的な開発が始まっているLTEの計測器需要を的確にとらえ、顧客ニーズに対応した開発用計測器をタイムリーに市場投入します。

また、3G携帯電話の巨大マーケットである中国では、2009年1月、3大通信事業者それぞれ異なる3G通信方式(TD-SCDMA、W-CDMA、CDMA2000)のライセンスが発行されました。当社の計測器は、中国で採用されたすべての通信方式に対応しており、特に中国が推進し、チャイナモバイル社が採用したTD-SCDMAに対応した計測ソリューションを数多く保有しています。競合に対し優位性を維持しながら、世界最大の加入者数を誇る同社の新規需要の立ち上げりに備えています。

計測器事業のピーク需要のあるビジネスとベースビジネス



注4: QoS (Quality of Service)
 ネットワーク上で通信品質を制御し、サービス品質を保證する技術。

汎用計測器分野

通信機器やその他の電子機器などのエレクトロニクス分野で幅広く使用される計測器を提供しています。安定した収益を実現するため、当社では顧客ニーズに適応したアプリケーション提供によりシェア拡大を目指していきます。

当分野は、通信機器のみならず、自動車や情報家電に使用される電子部品の開発需要や生産量の変動の影響を受けるため、短期的な見通しは不透明ながらも、長期的には市場規模も大きく安定的なビジネスが見込まれます。

当社の強みである高周波発生技術や高周波測定技術などを活かした製品開発と、小型化高密度実装技術と省エネ技術を活かしたハンドヘルド計測器群の強化により、安定した需要獲得を目指しています。また、汎用計測器製品群としてアプリケーションを充実させるとともに、通信市場とは設備投

資サイクルが異なる汎用計測器分野でのビジネスを拡大することにより、計測器事業の収益の安定化を推進します。加えて、代理店など間接販売チャンネルを拡充して、シェア拡大を図ります。

計測器事業では、3G携帯端末やLTE関連の開発などのピーク需要のあるビジネスに加え、通信機器・携帯端末の製造需要や建設・保守需要、さらにはネットワークモニタリングなどのベースビジネスを拡大し、安定した成長を目指します。